

# 高温に対する技術対策

平成29年6月30日  
農業技術課

## 1 気象予報

6月26日および6月29日に「高温に関する異常天候警戒情報」が出されており、7月1日以降、平年より気温がかなり高くなると見込まれています。

また、平成29年6月30日11時発表の山梨県週間天気予報では、次のような気温が予想されています。

6月30日11時 山梨県の週間天気予報

日付	1 土	2 日	3 月	4 火	5 水	6 木	7 金	
山梨県 府県天気予報へ	曇 	曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇時々晴 	曇 	曇 	
降水確率(%)	20/40/30/10	40	30	30	40	40	40	
信頼度	/	/	B	B	C	C	C	
甲府	最高(°C)	29	34 (31~37)	34 (29~37)	34 (30~37)	33 (29~37)	32 (28~35)	32 (28~35)
	最低(°C)	21	23 (21~24)	23 (21~24)	23 (21~24)	23 (21~24)	23 (21~24)	23 (21~24)

## 2 技術対策

急激な温度変化と高温による農作物への影響を軽減するため、次の技術対策を講ずる。

### (1) 果 樹

#### 1) 共通事項

- ・土壌が乾燥している場合は、定期的な灌水を行う。成熟期の園では約5日間隔で20mm、果実肥大期の園では4~5日間隔で30mm、収穫後の園（施設栽培を含む）では約7日間隔で30mmを目安に灌水を行う。また、樹冠下は敷ワラ、敷草を実施するとともに、草生栽培園では草刈を励行する。
- ・灌水施設のない園は、樹冠下を中心に1樹当たり200~300リットル灌水する。
- ・アザミウマ類やハダニ類の発生が多くなることが懸念されるため、定期的な防除を行う。ハダニ類は多発してからでは防除効果が劣るため、初期防除を徹底する。
- ・施設栽培では換気を徹底し、異常な高温に注意する。

#### 2) ブドウ

- ・直射日光が当たる果房には、日焼け果の発生が心配されるため、クラフト傘や不織布傘を掛けるとともに、誘引の見直しを行う。特に若木では、新梢や葉が少なく、明るい箇所が多いので注意する。
- ・甲斐路系品種等では、急激な温度変化で縮果症の発生が心配されるため、やや多めの着房、着粒とする。
- ・着色期に入る品種では、着色向上を図るため、夕方のほ場散水（5mm程度）や棚面への散水（200リットル/10a）を行う。また、着色始めの果房が高温とならないように、新梢の切除や摘葉を控え、必要以上に棚面を明るくしない。

#### 3) モモ

- ・過度な葉摘みや徒長枝の剪除は避ける。

- ・高温により果実の地色の抜けが早まることが予想されるため、除袋時期が遅れないように注意する。
- ・反射光の強いマルチは、日焼け果が起きやすいので、白色マルチを使用するか、反射マルチを敷く量や反射程度（古いマルチや裏面使用）を調節する。また、着色が進み次第早めに反射マルチを除去する。
- ・下垂枝は支柱やつり上げにより、反射マルチとの距離を確保する。
- ・硬度2～2.5kgを目安に適熟収穫に努める。収穫は、日持ち性向上のため気温の低い時間帯に行く。なお、最高気温が35以上になると、着色が遅延する傾向があるため、熟度に注意した収穫を行う。

#### 4) スモモ

- ・着色期の過度な葉摘みや新梢の切除は避ける。また、日焼け防止、果実の軟化予防のため、直射日光が果実にあたる場所には、カサかけを行う。
- ・収穫期に高温が続く場合、過熟果の発生が心配されるので、果実の弾力と熟度を優先した収穫に努める。なお日持ち性向上のため、収穫は気温の低い時間帯に行く。

#### 5) オウトウ

- ・高温、乾燥は翌年の双子果の発生原因となるため、定期的な灌水と敷ワラ等により土壌乾燥を防止する。

### (2) 野菜

- ・健全な生育を促すため、定期的に灌水する。
- ・地温の上昇と水分の蒸散を抑えるため、敷きワラや敷き草を行う。
- ・果菜類では、着果負担を軽減し草勢を維持するため、不良果（奇形・変形果等）は早めに摘果し、健全果（良果）は肥大し過ぎないように収穫を適期に行う。
- ・草勢が極端に落ちている場合には、草勢の回復を図るため、必要に応じて液肥の葉面散布を行う。
- ・アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガなどの害虫による被害が増加することが懸念されるため、ほ場での発生に注意し、発生初期の防除に努める。
- ・夏秋なすでは、つやなし果の発生を防止するため、整枝、摘葉などを徹底し、葉面からの蒸散量を抑える。うね間灌水をする場合は、地温が下がる夕方に行い、株元まで水位を上げないように注意する。
- ・夏秋トマトでは、ホルモン処理を徹底し、着果促進を図る。また、カルシウム剤の葉面散布を行い、尻腐れ果の発生を予防する。

### (3) 花き

#### 1) 共通事項

- ・アザミウマ類、ハダニ類などの害虫による被害が増加することが懸念されるため、発生状況を把握し、初期防除に努める。

#### 2) 施設花き

- ・寒冷紗などで、強めの遮光をするとともに、強制換気に努め、葉面温度の上昇を防止する。
- ・朝夕に灌水を行う。

#### 3) 露地花き

- ・敷きワラ、敷き草を行い、朝夕に灌水を行う。

#### (4) 水 稻

今後、穂肥の施用時期を迎えるが、栄養不足になると胴割れ粒の発生を助長するので、葉色を見ながら適期に施用する。

#### (5) 茶

敷草を行い乾燥防止を図るとともに、定期的な灌水に努め樹勢の維持を図る。

#### (6) 畜産

##### 共通事項

- ・良質で消化率の高い飼料の給与、ビタミンやミネラルの追給求及び清浄で冷たい水の給与に努める。
- ・高温時は飼料や水が劣化しやすいので、残渣等を放置しないよう努める。
- ・観察の頻度を増加させることにより、健康悪化の兆候がないか等、家畜の健康状態をよく把握し快適性に配慮した飼養管理に努める。

##### 舎飼い家畜（牛・豚・鶏等）

- ・飼育密度の緩和、換気扇や扇風機等による送風や散水・散霧を行い、家畜の体感温度の低下に努める。
- ・寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏・壁・床への断熱材の設置及び屋根への消石灰の塗布等により畜舎環境の改善に努める。

##### 放牧家畜（主に牛）

- ・放牧する時は、朝・夕などの涼しい時間帯での実施や、日陰林等のある放牧地での実施に努める。

## 熱中症対策

暑熱環境下での作業は、熱中症（熱射病、熱けいれん、熱まひ）を生じる恐れがあるので、次の事項に注意する。

日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行う。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に気を付ける。

帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をする。

作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努める。

屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努める。

作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気する。